

いのちを育む「豊穡の干潟」を守る取り組み
有明海とラムサール条約



有明海の大きな干満差がつくる広大な干潟は、珍しい生き物たちの住処や、渡り鳥たちの休憩所となっています。国際条約で守られた干潟もあります。



有明海の夕日 (東与賀町の海岸にて撮影) 有明海は佐賀県・福岡県・長崎県・熊本県に囲のは有明海の伝統漁法の一つ、「四つ手網(棚じぶ)」です。現在はほとんど見られなくなりましたが、

日本一の干満差と豊かな干潟

有明海の面積は、内湾性の海としては東京湾や鹿児島湾より広いですが、水深は浅く平均20mで、最も深いところは約165mです。

その特徴は、5~6mにも達する日本一の干満差と広大な干潟です。また、筑後川や嘉瀬川をはじめ、多

調べてみよう? どうして干潟には珍しい生き物があるんだろう?



まれた内湾性の海です。手前に写っている鹿島市にはいくつか設置されています。(佐賀県環境課提供)

くの河川から豊かな栄養分が流れ込んでいます。この干満差と栄養分によって多様な生き物たちが生息しています。

有明海では干満差を利用した「あんこう網漁」「ガタ羽瀬漁」「手



ムツゴロウ (鹿島市商工観光課提供)

有明海のシンボルです。エラと皮膚の両方で呼吸ができるので、干潟をはいまわり、藻類を食べます。オスが盛んに求愛のジャンプをする光景は、有明海の風物詩となっています。



ワラスポ (中村安弘氏提供)

凶暴そうな歯、退化した目、鱗が少ないグロテスクな姿ですが、食べるとおいしいといわれます。ハゼの仲間、煮付けや干物など珍味として食されています。



ミドリシャミンセンガイ (佐賀県水産課提供)

三味線に似た形をしており、地元では「女笠」^{めがし}とも呼ばれます。「カイ」と名前がついていますが、貝とは異なる触手動物です。体のつくりから「生きている化石」と呼ばれています。



「東よか干潟」にやってきたシギ・チドリ類

(佐賀市環境政策課提供)

シベリアやアラスカなどで繁殖したシギやチドリ類が、オーストラリアやニュージーランドへ南下する途中に「東よか干潟」で休息とエネルギー補給を行います。

押し網漁などの独特の漁法が、伝統的に行われてきました。干潟には、**ムツゴロウ**や**ワラスボ**、**ミドリシャミセンガイ**などの珍しい生き物も見られます。有明海に面した人たちは、これらの海の幸を、感謝と親しみを込めて「**前海もん**」と呼んできました。戦後は海苔養殖が発達し、全国トップクラスの生産高を誇っています。

県内2か所がラムサール条約に登録

有明海の干潟は、渡り鳥の休息や採食の場としても重要な中継地となっています。春や秋の渡りの季節、干潟では、ハマシギ、ズグロカモメなどの**シギ・チドリ**類がいっせいに飛び立つ姿や集団で餌をついばんだり休息したりする姿が見られます。また冬は、ツクシガモなどのカモ類が数多く飛来します。

干潟の環境を守る目的で、2015(平成27)年、佐賀市の「**東よか干潟**」(登録面積2.18km²)と鹿島市の「**肥前鹿島干潟**」(登録面積0.57km²)が、

「**ラムサール条約**」に登録されました。「ラムサール条約」とは、1971(昭和46)年に制定された国際条約です。この条約は、①**湿地の生態系を守ること**②**湿地から得られる恵みを人々の生活に持続的に利用(ワイズユース)すること**③**登録された湿地を通じて環境保護について学習し、交流すること**の3つを大きな目的としています。

シギ・チドリ類飛来日本一の「東よか干潟」

「東よか干潟」は有明海の最も奥にあり、佐賀市の東与賀干拓の南側に面しています。

この干潟は、クロツラヘラサギ、ズグロカモメ、ツクシガモなどの絶滅危惧種やハマシギなどの準絶滅危惧種を含む、多くの水鳥の渡りの中継地や越冬地となっています。環境省の調査によると、シギやチドリ類の飛来数は日本一となっています。また、「東よか干潟」は塩生植物「**シチメンソウ**」の国内最大の自生地としても知られています。

干潟周辺では、ボランティアによる清掃活動やシチメンソウの保全活動が行われてきました。また、地元の小・中学生を中心とした「ラム

COLUMN

「海の紅葉」と呼ばれるシチメンソウ

シチメンソウは干潟に生え、塩水に耐える植物であることから「塩生植物」と呼ばれています。秋には鮮やかな赤に変わるため「海の紅葉」と呼ばれます。色が変化することが七面鳥の顔のようなため、その名が付けられたと言われています。



(佐賀市環境政策課提供)



(西田善美氏提供)



鹿島ガタリンピック

地域おこしの一環として始まり、30年以上続く人気イベントに成長しました。



ズグロカモメ

全長約32cm。ユリカモメより少し小さく、くちばしが黒くて短いのが特徴です。頭が黒いことから「頭黒(ズグロ)カモメ」と呼ばれています。

サークルクラブ」が、干潟の生き物の調査や野鳥観察の活動に取り組んでいます。また、2020(令和2)年に開館した「東よか干潟ビジターセンターひがさす」は、東よか干潟の価値や魅力を発信し、観光・学習・交流など様々な活動の拠点となっています。この他、海岸堤防には望遠鏡が設置され、干潟に飛来する野鳥を観察することができます。

干潟に親しめる「肥前鹿島干潟」

「肥前鹿島干潟」は、鹿島市の塩田川と鹿島川の河口部に広がる干潟です。東アジア地域におけるシギ・チドリ類の貴重な渡りの中継地や越冬地となっています。秋から春にかけて、約40種類のシギ・チドリ類が見られ、中でもチュウシャクシギなどが観察されています。特に、チュウシャクシギの個体数は日本有数です。

「肥前鹿島干潟」では、有明海の干潟の価値を広く知ってもらうため、小学生や市民を対象に、

毎年、野鳥観察会が開催されています。

また、1985(昭和60)年から毎年、干潟の運動会「鹿島ガタリンピック」が開催されています。海外からも参加者があり、大人から子どもまで干潟に親しみ、学ぶ機会となっています。また、近年は修学旅行などで県内外から多くの人が訪れて干潟体験を楽しんでいます。

調べて書いてみよう！

気に入った有明海の生き物を描いてみましょう。



出かけてみよう！



東よか干潟ビジターセンターひがさす (佐賀市東与賀町大字田中2757-4)
東よか干潟に関する展示のほか、展望台からは佐賀平野や有明海を一望できます。
TEL 0952-37-0515 / 休館日 月曜日(祝日の場合は翌平日)、年末年始 / 営業時間 9:00~17:00
(佐賀市環境政策課提供)



道の駅鹿島 (鹿島市音成甲 4427-6)
道の駅鹿島内にある「鹿島市干潟展望館」がラムサール拠点施設になっています。
TEL 0954-63-1768 / 営業時間 9:00~17:30
(鹿島市商工観光課提供)

検索してみよう！

ラムサール条約

有明海 干潟の生き物

有明海 漁法

シギ・チドリネットワーク



伊万里湾のカブトガニ

市民の力で守られている「生きている化石」



伊万里市・唐津市などに面し、大小の島々が浮かぶ景勝地として知られる伊万里湾。ここは、絶滅危惧種であるカブトガニの繁殖地でもあります。



伊万里湾を臨む風景 多々良海岸沿いにある、「伊万里湾カブトガニの館」では、常時

絶滅が危惧される「生きている化石」

伊万里湾は、有田川や伊万里川などの河川が運んできた土砂によって干潟が発達しています。特に、湾奥部の伊万里市多々良海岸には、カブトガニの産卵に必要な砂地と、その後方に幼生(子ども)が成長する干潟があり、日本で有数の繁殖地となっていま

調べてみよう? カブトガニは他の場所に生息していないだろうか?



カブトガニ繁殖地 多々良海岸

カブトガニの見学が可能です。

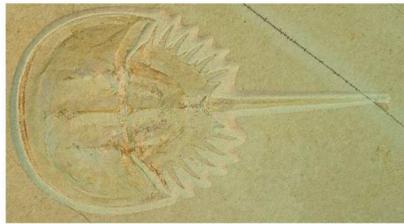


COLUMN

天然記念物

貴重な生物や自然環境の保護・保存を目的として国や自治体が指定するもので、動物、植物、地質・鉱物、天然保護区域の4種類があります。佐賀県では、県鳥であるカササギ(カチガラス)の生息地をはじめ15件が国の天然記念物に指定されています。(平成29年2月現在)

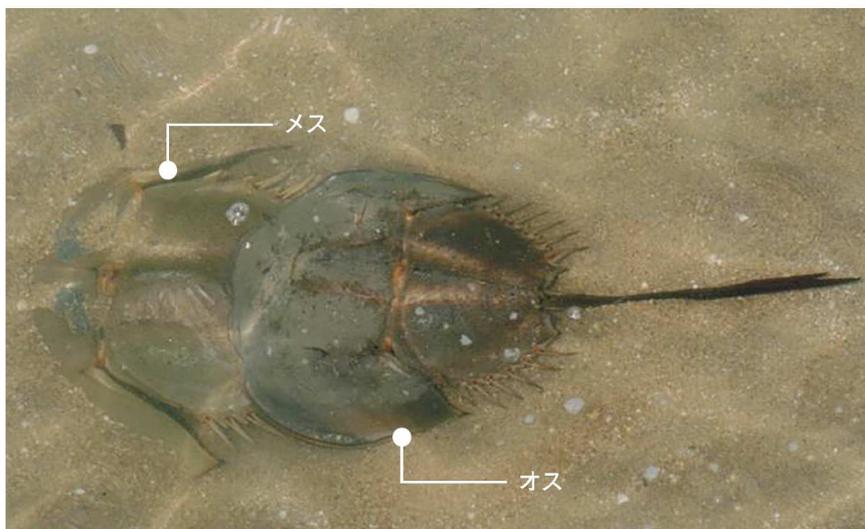
(佐賀県広報広聴課提供)



メソリムルス(笠岡市立カブトガニ博物館提供)の化石
メソリムルスは、中生代ジュラ紀にヨーロッパからアジアにかけて広く生息していたと言われています。

す。カブトガニの繁殖に必要なきれいな海水と砂地、栄養豊富な干潟は、市民の努力により守られてきました。

カブトガニは、カブトガニ科に属する節足動物です。



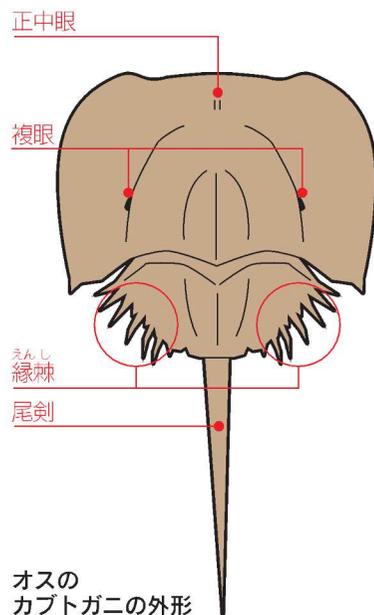
つがい(メスの後ろにオスがくっつく状態)で産卵するカブトガニ

毎年6月～8月の大潮の日の満潮時に、カブトガニがつがいで浜にやってきて産卵する姿を見ることができま
す。多々良海岸では、毎年7月中旬にカブトガニの産卵を観る会が開かれます。

(浦見良司氏提供)

名前に「カニ」が含まれていま
すが、カニなどの甲殻類ではな
く、分類上はカニよりもクモに近
い生き物です。カブトガニは、伊
万里では鉢を伏せたような姿か
ら「ハチガメ」とも呼ばれてきま
した。

カブトガニの特徴は、カニのよ
うな甲羅に覆われた背面と、そこ
から伸びる尻尾のような「尾剣」
です。カブトガニは、およそ2億年



オスの
カブトガニの外形



ふ化直前の卵(回転卵)

生まれる前から卵の中を卵の中を後ろ回りに
回転します。

(浦見良司氏提供)



(枝原のカブトガニとホテルを撮る会提供)

市民によるカブトガニ保護活動

市民によって、多々良海岸ではカブトガニの産卵期
の前に清掃活動が行われています。

前の中生代ジュラ紀に生息して
いたメソリムルス¹の化石とよく
似ていることや、そのころからほ
とんど形態が変わっていないこ
とから「**生きている化石**」と呼ば
れています。カブトガニは脱皮成
長をしますが、幼生は雌雄同じ形
態です。最後の脱皮で雌雄の形態
が異なります。これは、つがいに
なるための変化です。成体になる
までに14～15年はかかると言わ
れています。

かつて、瀬戸内海から九州北部
沿岸にかけて生息していたカブ
トガニですが、海岸の埋め立てや
護岸工事などによって、年々生息
地が狭められています。そのた
め、カブトガニは、現在、環境省
レッドリストで**絶滅危惧Ⅰ類**^{※1}
に選定され、国内での絶滅が懸
念されています。

佐賀県では、伊万里湾の他に玄界
灘沿岸にもカブトガニは生息して
います。

※1 すでに絶滅していたり、絶滅寸前に追いやられ
ている動植物のこと。↑類はごく近い将来、絶
滅の危険があること、Ⅱ類は絶滅の危機が増大
していることを指す。

保護に取り組む市民団体と伊万里高等学校

伊万里市でのカブトガニ保護活動の始まりは、1963(昭和38)年に**伊万里高校生物部**(現在は理化・生物部)の調査研究への取り組みからです。同部では、繁殖のための幼生飼育や放流を行うほか、保護活動に携わる小・中学校への指導も長年続けています。

伊万里高校生物部の活動に続いて、1979(昭和54)年には「**伊万里市カブトガニを守る会**」が発足しました。

1986(昭和61)年から伊万里高校生物部が、つがいいで産卵している数の調査を毎年行っており、この調査結果は、伊万里湾におけるカブトガニの生息数変化の貴重な基礎データとなっています。

同年、学生や市民の熱意が実り、伊万里市は多々良海岸約29万㎡をカブトガニ繁殖地として天然記念物に指定しました。

市民を始めとする保護活動は広がり、2006(平成18)年に誕生した「**牧島のカブトガニとホタルを育てる会**」などをはじめ、伊万里海洋少年団などの団体では、毎年、カブトガニの産卵場所である多々良海岸の



脱皮して成長するカブトガニ

(牧島のカブトガニとホタルを育てる会提供)

「生きている化石」と呼ばれるカブトガニは、脱皮を繰り返しながら大きくなっていきます。メスの方が脱皮の回数が1回多いため、オスより大きくなります。

清掃活動を行い、流れ着いたごみなどを丹念に拾い集め、美しい砂浜を維持しています。

2015(平成27)年、国は、「**伊万里湾カブトガニ繁殖地**」を天然記念物に指定しました。指定対象区域は伊万里市瀬戸町の多々良海岸、指定面積は伊万里市が指定した区域の約2倍となる約58万㎡です。「カブトガニが産卵する砂浜とその幼生が生育する干潟が良好な状態で維持されており、地域における保護意識も高く、重要な繁殖地である」ことが指定理由です。地域の人々のカブトガニへの思いが、「生きている化石」を守り続けているのです。

学校の取組

【伊万里湾とカブトガニ】

■ 佐賀県立伊万里高等学校

伊万里高校では、50年以上カブトガニの産卵調査、産卵地である多々良海岸の清掃を行っています。



調べて書いてみよう!

カブトガニの生態には他にも特徴があります。調べて書いてみよう。

出かけてみよう!



伊万里湾カブトガニの館 (伊万里市瀬戸町 3134-448)

生きたカブトガニのほか、脱皮パネルや脱皮殻などが展示されています。

TEL 0955-22-5783 (牧島コミュニティセンター)

休館日 月曜日(祝日の場合は翌日)、年末年始 ※7~8月は無休

営業時間 7~8月...9:00~17:00、9~6月... (平日) 10:00~16:00 (土日祝) 9:00~17:00

(伊万里市提供)



検索してみよう!

伊万里港

カブトガニ産卵

佐賀県天然記念物

カブトガニ 世界分布



玄界灘と檜原湿原

数々の景勝に恵まれた海と多様な生き物が息づく湿原



佐賀県北西部の玄界灘沿岸は、国定公園として指定される美しい風景が広がります。この地域周辺には、多様な植物や動物が棲む湿原もあります。



虹の松原と唐津湾 「日本の白砂青松百選」「日本の渚百選」などにも選ばれている

三つの地域に分かれる玄界灘沿岸

九州北部沿岸部に面した海を**玄界灘**と呼び、様々な自然環境の中で、多くの動植物が生息しています。

玄界灘に面した地域は、唐津湾を中心とする東部地域、東松浦半島一帯の中部地域、伊万里湾を中心とする西部地域に分けることができます。ここに



玄界灘沿岸には、どんな景勝地があるんだろう？



日本有数の景勝地です。

(吉田善美氏提供)



アカウミガメの産卵

アカウミガメは満潮時でも海水に浸からない砂浜を探して産卵します。

(吉田善美氏提供)

は、多くの景勝地があり、佐賀、福岡、長崎の玄界灘沿岸は「**玄海国定公園**」として指定されています。

東部地域の沿岸には、国の特別名勝に指定された、日本三大松原の一つ**虹の松原**があります。脊振山地の花崗岩が風化して、砂となり、河川の運搬・堆積作用によって多くの砂浜海岸が形成されます。そこは、絶滅危惧種に指定されているアカウミガメの産卵地になっています。

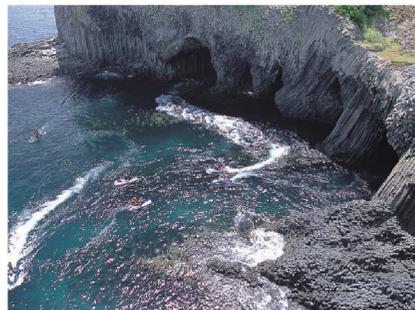
虹の松原は、17世紀初期に唐津藩主寺沢広高が防風・防砂林として幅約500m、長さ約4500mにわたり、クロマツを移植したのが始まりと言われています。クロマツの落葉は油分が多く、燃やすと火力が強いため、昔は炊飯などの火力として利用されていました。4月下旬から5月中旬ごろには、マツの梢で「ムーゼムーゼ」とハルゼミが合唱します。

東松浦半島は、今から約1600万年～1500万年前の火山活動で



噴出したマグマが地表で急激に冷え固まった玄武岩からできた半島です。溶岩の粘性が弱かったために、楯(台地)状の地形となつて考えられています。この半島では河川が発達しなかつただけでなく、粘土性の赤土のために保水力も弱く、200か所以上の農業用溜池が作られ、農業が営まれてきました。

湊の海岸線では、小規模な**海岸段丘**が見られます。立神の東方には、ハイアロクラストと呼ばれる玄武岩質のマグマなどが水中で噴出した際に急冷されてできる岩石が見られ、七ツ釜では、ほぼ六角柱の**柱状節理**や波の侵食で形成された海食洞※1・海食崖※2・海食台※3が見られます。海岸線には、タイトウゴメ、ハマゴウ、ハマユウなどの**海浜性植物**やマテバシイやヤブツバキなどの小規模な林が



七ツ釜 海食洞が複数並んでいる場所です。1925(大正14)年、国の天然記念物に指定されました。

形成されています。

- ※1 波の侵食作用によって海食崖にできた洞窟のこと。
- ※2 波の侵食作用でできた斜面の急な崖のこと。
- ※3 海食崖の下の方にできる緩やかな斜面のこと。

中部地域と西部地域の沿岸は典型的なりアス海岸で、小さな湾や入り江が多く、磯も発達しています。これは、玄界灘に浮かぶ高島、神集島、加部島、小川島、加唐島、松島、馬渡島、向島などの海岸線にも見られます。

暮らしの中から創り出された九州の尾瀬・櫻原湿原

九千部山から脊振山、浮嶽と連なる山々や天山・作礼山などの一帯は、今から約6500万年～170万年前にかけて地下の深い所でマグマがゆっくり冷え固まってできた花崗岩が隆起してできたと考えられています。山頂付近には**アカガシ二次萌芽林**が発達し、約3億年前の地層から発見されたトンボの化石とほぼ同じ形態をもつ**ムカシトンボ**や緑色の金属光沢に輝く**キリシマミドリシジミ**というチョウなどが生息し



七ツ釜の柱状節理
「節理」とは、マグマが冷えて固まる過程で、縮んで体積が減るためにできる割れ目のことです。割れ目が規則正しく並んだものが柱状節理です。



ムカシトンボ 「生きている化石」と呼ばれています。



キリシマミドリシジミ(オス)
緑色の金属光沢に輝く翅を持つのはオスのみです。

ています。山間部は、ところどころが盆地状になっていて、粘土層が堆積しています。そこが不透水層となり、多くの湿地が形成されました。その一つに**椶原湿原**があります。

椶原湿原は、脊振山地の西部の標高591mに位置し、様々な植物群落が見られます。氷河期の遺存種*であるミツガシワをはじめ、サギソウやトキソウを含む335種類以上の植物や、日本で最も小さなハッチョウトンボを含む317種類以上の昆虫が確認されており、生物多様性に富んだ、九州において重要な湿地の一つとなっています。

椶原湿原は、椶原地域の「**里山**」として、農林業を中心とした人々の暮らしの中から創り出されたものです。多くの湿地は、放置しておくことで陸地化が進み、ススキ原からアカマツなどの林を経てカシ類が茂る**極相林**へと自然が移り変わっていきます。一方、椶原湿原の場合、薪炭用に樹木を伐採したり、園芸用としてミズゴケを採取したりするなど、人が管理・利用してきたことにより**湿生草原**が成立したのです。



椶原湿原
「日本の重要湿地500」にも選ばれています。

(佐賀県観光推進課提供)

椶原湿原は、1976(昭和51)年に**佐賀県自然環境保全地域特別地域**に指定されました。しかし、緩やかな植生遷移の進行や、オオミズゴケ、ヨシなどの繁茂、周辺域からの土砂の流入、周辺森林の

成長等により湿原植生の劣化が進んでいます。このため、地域住民やボランティア団体等と県が協力して、野焼きの継続や草刈り、オオミズゴケ等特定植物や堆積土砂の除去等を行い、湿地環境を良好な状態にする取組を行っています。

*氷河期に寒さを逃れて南に移動してきた生物が、その後暖かくなっても北に戻らず、移動地に残ってしまったもの。

学校の取組

【地域のためのスポーツ貢献】

■ 佐賀県立唐津西高等学校ヨット部

競技力の向上はもちろん、競技の普及・発展のためにヨット教室にも積極的に参加しています。



調べて書いてみよう!

椶原湿原に、他にどんな植物や昆虫が生息しているのか調べて書いてみましょう。



出かけてみよう!



椶原湿原(唐津市七山池原)

春はミツガシワ、夏はトキソウやサギソウの花が咲き、珍しい食虫植物を見ることができます。湿原内での動植物の採取は禁止されているので注意しましょう。見学自由。

TEL 0955-53-7175(唐津市七山市民センター)
(吉田善美明氏提供)



玄海中展望塔(唐津市鎮西町波戸)

海上デッキからは玄界灘の島々を見渡すことができ、水深7mの海中展望塔からは海中を自然のままに泳ぐ魚を観察することができます。

TEL 0955-82-5907 / 休館日 年中無休※但し荒天等により閉館する場合があります。/ 営業時間 4月~9月9:00~18:00 10月~3月9:00~17:00
(佐賀県観光推進課提供)

検索してみよう!

環境副読本わたしたちの環境

日本三大松原

玄海国定公園

7つの島



それは地史的な偶然によって生まれ人間の営みによって守られた



佐賀県は淡水魚の宝庫です。佐賀の水辺には、世界的に珍しい淡水魚が普通に泳いでいたりします。しかし、それは佐賀県が田舎だからという理由だけではないのです。



COLUMN

淡水魚のいろいろ

①山や海を越えられない淡水魚

コイやドジョウなど、一生を真水の中だけで生活できるものを純淡水魚と呼びます。

②川だけでは生きられない淡水魚

アユやウナギなど、一生のうちには必ず海と川を往復する

魚は遠し回遊魚と呼ばれます。

③海水魚なのに淡水魚

スズキやクロダイなどは海水魚ですが、普通に真水域にも入ってくるので間接性淡水魚と呼ばれます。

④魚ではないのに淡水魚

ヤツメウナギの仲間は無頭類です。魚類ではありません。



純淡水魚は地球の歴史の生き証人!

国内で純淡水魚が最も豊富なのは、濃尾平野や琵琶湖を中心とする地域です。そして、佐賀県、福岡県を中心とした北部九州は、広島県、岡山県を中心とした地域と並んで、純淡水魚が豊富な地域です。

これらの地域の魚類は、中国大陸の淡水魚と極めて近縁であることが特徴です。どうして海や山を越えられないはずの純淡水魚が、海を挟んで中国大陸と西日本に分布しているのでしょうか。

この不思議な淡水魚の分布は、地球の歴史を反映したものです。新生代第四紀以降も、少なくとも4回の大きな氷期(寒冷な時期)があったと言われていています。地球が寒冷化すると海面は低下するので、最終氷期の海面は現在より120mも低かったと考えられています。海面が低下すると浅い海は干上がるので、大陸や島の中には陸続きになるところができて



(田島正敏氏提供)

ニッポンバラタナゴ

学名: *Rhodeus ocellatus kurumeus*

平野部のクリークや流れが遅い用水路などに普通に見られるバラのように美しい小魚です。中国大陸と陸続きだったところにやってきて、海面の上昇によって隔離され、日本固有亜種として進化しました。学名のクルメウスは福岡県久留米市に由来します。近年では、亜種関係にある中国大陸原産のタイリクバラタナゴ(*R. o. ocellatus*)との交雑のため、絶滅危惧ⅠA類に指定されています。

ます。最終氷期に陸続きになったのは、東南アジア地域、ベーリング海峡、そして日本周辺の3か所しかありません。

この当時、瀬戸内海は干上がり、日本海は湖のように孤立し、東シナ海の海底は平原だったと考えられています。この平原上で、中国大陸の河川と西日本の河川はつながっていて、お互いの魚が行き来するようになったと推定されています。

有明海が守った魚たち

純淡水魚に限らず、**通し回遊魚**や**周縁性淡水魚**、汽水（海水と淡水が混ざり合い、塩分の少ない水）を好む海水魚も、沿岸伝いに日本にやってきたはずだと考えられています。それらの多くは、その後の環境変化で減びていったと考えられますが、その一部は、中国大陸沿岸と環境の似た**有明海**の沿岸で生き残りまし**ムツゴロウ**はその代表です。有明海は東京湾と同じくらいの大きさ



絶滅危惧 I B 類

カゼトゲタナゴ

流れの緩やかな幅の狭い水路に生息する小魚。北部九州の固有亜種※1であったことから英名はKyushu bitterling。佐賀市中心部の小さな水路などで見られます。



絶滅危惧 I A 類

アリアケヒメシラウオ

世界中で筑後川などの有明海流入河川にのみ生息する固有種。他のシラウオ類と異なり、本種は淡水域のみで生活しています。嘉瀬川や六角川などでも姿が見られます。



絶滅危惧 I B 類

エツ

世界中で有明海湾奥部にのみ生息する固有種。産卵は筑後川と六角川の淡水域で行われます。筑後川流域の一部には弘法大師が流したヨシの葉がエツになったという伝説があります。

※1 分布が特定の地域に限定される亜種のこと。



絶滅危惧 I B 類

アリアケスジシマドジョウ

世界中で佐賀、福岡、熊本の3県の有明海流入河川にのみ分布する淡水魚。きめの細かな砂底の河川や水路に流れの緩やかな幅の狭い水路に生息しています。



絶滅危惧 I B 類

ヤマノカミ

国内では有明海とその流入河川にのみ分布。5月ごろに河川に遡上し、11月頃に有明海に戻ってタイラギなど大型二枚貝の貝殻に産卵。卵はオスによって保護されます。



絶滅危惧 II 類

ハゼクチ

国内では有明海とその流入河川にのみ分布する日本最大のハゼ。六角川より西の柔らかい軟泥の干潟に掘った穴の天井に産卵。1年で最大55cmに成長する年魚です。

ですが、有明海には、他の海と異なり、「日本国内ではここだけ」「世界中でここだけ」といった生物が多く生息しています。離島を除いて、このような海はあまり例がありません。

そして農業が淡水魚を守った

稲作伝来以降、有明海沿岸では、人々は干拓により水田を作り出してきました。このとき、**江湖**※2の泥を掘り上げて**微高地**に**客土**※3して水田とし、掘り下げられ

COLUMN

淡水取水（あおとり）

穏やかな内海である有明海は、干満の差が最大6mに及ぶこともある海です。通常、川から海に流れ込んだ真水は河口付近では、海水と混ざって利用できなくなります。そうでなくても、川が一番低いところを流れますので、ポンプを使わなければ取水できません。ところが、有明海沿岸では河口付近でも、真水は海水と混じり合うことなく、密度の違いで海水の上に乗ったまま逆流し、上げ潮によって数mも堰上げされます。

水の不足する佐賀平野南部では、この上澄みの部分を上手に取水してクークに蓄えて、利用してきました。

た部分が**クリーク**となりました。

また、水田の拡大によって不足する水も、**淡水取水**(あおとり)によって有明海から確保されてきました。クリークは「ゴミ汲い」と呼ばれる泥上げ作業など、人の手によって管理され陸化が防がれてきました。また、クリークには食料となる魚を増やすため「**温め**」と呼ばれる**魚礁**※4も設置されていました。

※2 干潟の表面に刻まれた水筋。 ※3 他から性質の異なる土を運んで混入すること。
 ※4 魚を保護・育成し、乱獲を防ぐために設置された構造物。

つまり、人間の食料を作り出す営みが、結果として淡水魚たちの生息地を作り、守ることになったのです。

日本の「鮎」は佐賀県産？

文学の世界は別として、生物名はカタカナで表記します。それは、中国と日本では同じ文字が別の生物を指していることがあるからです。例えば「**鮎**」という漢字は、もともと体表が「粘つく魚」であるナマズを示す字なのです。中国では、アユは「香魚」と表記されます。日本では、アユは寿命が1年なので「年魚」、または、鱗が小さいので「細鱗魚」と表記されていました。

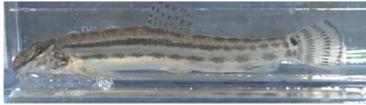
『日本書紀』や『肥前風土記』には「昔、**神功皇后**が松浦地方の玉島川(唐津市)に立ち寄られた際に、衣から引き抜いた糸と針を曲げた釣針に飯粒を付け『これからの戦いに勝てるならば細鱗の魚よ我が釣り糸を呑め』と言ってアユ釣りで占いをした」という故事が書かれています。流れの中で石の表面についた藻類だけをかじり取るアユの食性からはありえないことですが、このときの「**古い**」でアユが釣れたことから「**鮎**」という国字(日本で作られた漢字風の文字のこと)が作られたそうです。余談ですが、この珍しい事から「**希見国**」という言葉がなまって「松浦」の地名ができたとも書かれています。真偽の程は定かではありませんが、

国字の「鮎」は玉島川でアユが釣れなかったら作られなかった字かもしれないのです。

サケやトゲウオの仲間もやってきます

玄界灘側の河川では、アユのほかに、ウグイやシロウオなどの回遊性の淡水魚が河川での重要な資源となっています。また、九州には縁のない魚と思われがちなサケやトゲウオの仲間も見られます。

学校の取組
【アリアケスジマドジョウの保全】
 佐賀県立佐賀西高等学校サイエンス部
 佐賀西高校サイエンス部では、アリアケスジマドジョウの生息数調査と人工繁殖に取り組んでいます。



調べて書いてみよう!
 佐賀県に生息する絶滅危惧種の淡水魚について調べて書いてみましょう。



出かけてみよう!



佐賀県立宇宙科学館 (武雄市武雄町大字永島16351)
 常設展示「佐賀発見ゾーン」に、淡水魚や有明海などに暮らす生物を展示しています。
 TEL 0954-20-1666 / 休館日 月曜日、年末 / 開館 平日9:15~17:15、
 休日9:15~18:00、春休み・GW・夏休み9:15~19:00
(佐賀県観光推進課提供)





佐賀市エコプラザ/佐賀市清掃工場内
 (佐賀市高木瀬町大字長瀬2369)
 佐賀の河川や有明海に生息する生き物を展示したミニ水族館があります。
 TEL 0952-33-0520 / 定休日 水曜日 / 開館 10:00~17:00
(佐賀市循環型社会推進課提供)

検索してみよう!

佐賀県の淡水魚  



佐賀県は、江戸時代から、干拓事業や水利事業などの基盤整備によって米の生産量を拡大してきました。現在は、米をはじめ品質の高いタマネギやイチゴ、肉用牛などが生産され、豊富な食材の供給地となっています。



佐賀牛 厳しい基準を満たした黒毛和種の和牛が「佐賀牛」という名で呼ばれます。

優れた水利・治水システム

佐賀平野の大きな特徴は、江戸時代から昭和の時代まで続けられた干拓事業により、耕地面積が拡大してきたことです。

江戸時代の佐賀平野では、河川の氾濫による洪水



調べてみよう
身近な地域では、
どんな農畜産物が
作られているんだろう



(JAさが提供)

や日照りによる干ばつが頻繁に起こっていました。このような課題の解消に貢献したのが、佐賀藩政初期に活躍した成富兵庫茂安です。茂安をはじめとする人々の、江戸時代の干拓や治水事業、利水事業によって、米の安定生産が可能となり、35万7,000石の佐賀藩を70万石以上の豊かな大藩にまで発展させたのです。

第二次世界大戦後の食糧難を克服するため、佐賀平野は国内有数の食料供給地になりました。農業用水を確保するために、嘉瀬川上流に北山ダムを造り、川下に設けた川上頭首工と呼ばれる堰で嘉瀬川の水を用水路に引き込み、小さな水路で水田に供給しました。



川上頭首工 (佐賀市大和町)

(佐賀土地改良区提供)

嘉瀬川の水を取水し、安定的に水田に送水することができます。

佐賀平野の西部にある**白石平野**では、農業用水が不足していたことから、揚水ポンプで地下水を吸い上げた結果、1965(昭和40)年ごろから地盤沈下が目立ちはじめました。そこで、歳月をかけて2012(平成24)年に**嘉瀬川ダム**を完成させ、白石平野に農業用水を送るようになりました。

新たな作物生産に取り組む佐賀農業

昭和時代から平成時代にかけて行われた利水事業や生産者の努力によって、佐賀県は、日本の農業先進地となりました。米は、県全体で作付面積2万2400ha、収穫量11万3100tで、九州では熊本県、福岡県に次いで3位、1反(1反=10a=1000㎡)当たりの収穫量は505kgで九州1位です。(2024年 農林水産省調べ)

現在は、米の裏作として麦・タマネギ栽培が盛んに行われています。米と麦・タマネギ等を組み合わせた生産で水田をフル活用し、耕地利用率は1986(昭和61)年から39年連続日本一です。

日本一の作付面積を誇る 二条大麦

佐賀県では、温暖な気候を生かし、水田で米を収穫した後に麦を播く二毛作が古くから行われて

全国でもTOP5を占める
佐賀県の農産物 (2024年度)

品目	全国順位
二条大麦	作付面積全国1位
ハウスミカン	出荷量全国1位
タマネギ	出荷量全国2位
アスパラガス	出荷量全国2位
大豆	収穫量全国4位
レンコン	出荷量全国2位
イチゴ	収穫量全国5位 <small>※10a(1000㎡)当たり</small>
夏秋キュウリ	収穫量全国2位 <small>※10a(1000㎡)当たり</small>

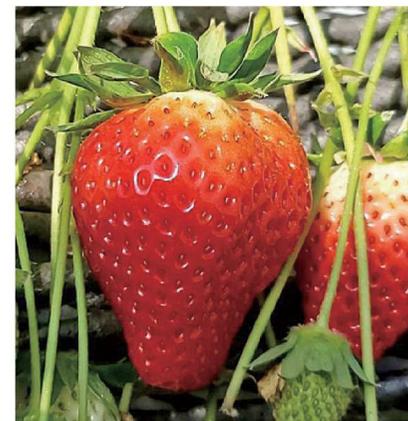


二条大麦 (JAさが提供)
二条大麦は主に焼酎や麦ごはん等の原材料として使用されます。

きました。2024(令和6)年度産の麦の作付面積は、北海道、福岡に次いで全国3位となっています。中でも、焼酎や麦ごはん等の原材料となる二条大麦の作付面積は全国1位です。

新品種が続々デビュー

米と並ぶ佐賀の農産物にイチゴがあります。例えば、佐賀市では、温暖な気候を生かして、昭和40年代初めから冬場の水田を利用したイチゴづくりが始まりました。その後、クリスマスシーズンの需要に対応するため、ビニールハウスでの栽培が盛んになりました。佐賀県は、今では全国有数のイチゴ産地となり、2024(令和6)年の作付面積は144haで全国9位となっています。



いちごさん (佐賀県果樹委員会提供)
バランスの良い甘味と酸味が特徴のイチゴです。

2018(平成30)年には佐賀県が7年かけて開発した新ブランド「**いちごさん(佐賀i9号)**」がデビューしました。

佐賀県は、果樹生産も盛んで、特に、ミカンは園地を白いシートで覆うシートマルチ栽培など高糖度な果実の生産に積極的に取り組み、「**さが美人**」など優れた品質のものが生産されてきました。

昭和40年代以降は、全国的にミカンが生産過剰となったため、佐賀県では、通常の栽培より早く出荷ができるハウスミカン栽培への転換が唐津地区を中心に進んでいきました。現在では、**早生温州**のうちハウス栽培の年間出荷量は4860tで全国1位を誇っています。(2024年 農林水産省調べ)

2021(令和3)年2月10日に、佐賀県のかんきつの新ブランド「**にじゅうまる**」がデビューしました。佐賀県が20年以上もかけて開発した品種



収穫を待つ茶畑
段々と広がる茶畑は嬉野を代表する風景です。

「佐賀県試35号」のうち、一定の基準をクリアしたものを「にじゅうまる」というブランド名で販売します。

嬉野式釜炒り茶と玉緑茶

温泉地・嬉野は、お茶の産地としても知られています。嬉野におけるお茶の歴史については諸説がありますが、幕末には海外へも輸出されていたことが記録に残っています。

近年、嬉野市では蒸し茶と釜炒り茶の両方が生産されています。

「うれしの茶」の茶葉の特徴は、「まが玉」のような形をしている「玉緑茶」で、全国茶品評会で2023（令和5）年から3年連続で最高位・農林水産大臣賞を獲得しています。

ブランド牛や多彩な農畜産物

「佐賀牛」は全国でもトップクラスの品質を誇っています。1987（昭和62）年から、肥育農家で飼育

される黒毛和牛のうち、一定の肉質の規格以上のものだけが「佐賀牛」として認定されるようになりました。2024（令和6）年は、佐賀県の肉牛が、

肉牛の品質を審査する品評会において、最優秀賞・農林水産大臣賞を受賞するなど、高級牛肉料理用として高い評価を受けています。

このほかにも、豚や鶏、白石平野のレンコン、県内全域で栽培されているアスパラガスなど、佐賀県は多彩で高品質の農畜産物を生産しています。

生産者や行政などが連携し、たゆまぬ努力により、佐賀県の農畜産物は品質を高めてきました。その取組はこれからも続いていきます。

調べて書いてみよう！
（佐賀県）
 脊振山のお茶や煎茶を広めた蓮池藩の売茶翁について調べて書いてみましょう。

出かけてみよう！

嬉野市うれしの茶交流館チャオシル（嬉野市嬉野町大字岩屋川内2707-1）
 県内では唯一、全国でも貴重な茶専門の資料館です。建物裏側に整備される茶畑では茶摘み体験をすることもできます。
 TEL 0954-43-1991 / 休館日 火曜日（祝日の場合は翌平日） / 営業時間 9:00～17:00
（嬉野市茶業交流課提供）

ひょうたん島公園（佐賀市兵庫町洲 4413）
 クリークの形をそのままの状態に残してある公園です。昔の農家の様子の展示見学や加工体験などができます。
 TEL 0952-36-9039 / 休館日 月曜日、祝日の翌日
 営業時間 9:30～17:00
（佐賀市観光協会提供）

検索してみよう！

成富兵庫茂安	第一次佐賀段階
佐賀平野	新（第二次）佐賀段階

COLUMN
「うれしの茶」の始まり
 「うれしの茶」の始まりは、さまざまな言い伝えがあります。室町時代、中国の渡来人が自家用にお茶を栽培したという説や、中国からお茶を炒る釜が持ち込まれ、釜炒り茶の製法が伝わったといった説があります。江戸時代、佐賀藩士吉村新兵衛が嬉野市の不動山皿山谷でお茶を栽培したことが「うれしの茶」の普及の始まりともいわれます。



盛んだった玄界灘の鯨捕り

鯨くじらは日本の食文化の重要な位置を占めてきました。

唐津藩主寺沢てらさわひろたか広高ひろたかのときに、現在の和歌山たいじ県の太地たいじから漁夫を雇い、銚もちでつく漁法が始まったといわれています。小川島おがわじまを中心に鯨見張小屋が置かれ、捕鯨されたクジラは小川島や加部島かべしまで解体されました。

鯨は、肉や内臓は食用に、髭ひげは工芸品に用いるなど、捨てるどころはなく、経済の中心であった関西まで流通しました。「鯨一頭で七浦つばつ浦潤う」※1といわれるほどでした。

※1 多くの港や町が潤うという意味